

(1) 第 23 回総会顛末記

(1) 総会開催へ

令和 5 年 5 月 20 日（土）午後 1 時に、顧問医師の橋本先生、齊藤先生、中嶋先生、滝爪先生、来賓の本部高橋会長代行、関西・兵庫・滋賀の各支部長の参加があり、会員 16 名の出席で 4 年振りの対面の総会となりました。

会場は、今まで使っていた橿原観光ホテルが廃業のため、近鉄畷傍御陵前駅近く、奈良県総合社会福祉センターの 5 階研修室 B 室と C 室での開催となりました。いろいろのことと不慣れなこともあり大変でしたが、大門笑子理事の総合司会で、今後の支部の存続を総会で決めるという前代未聞の総会が開会されました。

従来の総会では、それに引き続き講演と Q&A がありますが、今回は総会がどうなるか分からないと言うことで、講演は計画しませんでした。

会員総数 104 人のうち 55 人（うち出席者 16 名、回答者 39 名）が出席し定則数を超えていました。

(2) 総会での審議

次第に従って北林支部長の開会の挨拶に続き、来賓および近畿の各支部長さんからお言葉を頂きました。

会則で議長は支部長ですが、出席者の了承を得て中西副支部長が代役を務め、通例の通り、第 1 号・2 号議案として、令和 4 年度事業報告、決算・監査報告があり、審議後全会一致で承認されました。



いよいよ支部の今後を決める審議、第 3 号議案です。現状では解散止むなしとする A 案と、役員任期や活動内容を絞って継続するという B 案が示されました。議決の前に、B 案が選ばれた場合どうなるかを分かってもらう為に、第 4 号議案の役員人事、事業計画、予算案について村木から説明がありました。これらに関し質問を受けましたが、とくにないということで、投票に移りました。

投票結果は A 案が 1 票、B 案が 15 票でした。事前に欠席すると回答した 39 名のうち、A 案が 11 名、B 案は 21 名（支部長などに委任するとして 7 名を含む）でした。これを加えると、A 案が 12 票、B 案が 36 票となり、当奈良県支部を暫

定的に継続することが決まりました。

この決定を受けて、第4号議案として、令和5年度の役員選出、事業計画（案）と予算（案）が審議され、全員一致で承認されました。

ここで、今まで役員を務めて下さった方々に謝意を示すチャンスがなかったことは痛恨の極みです。ここに改めて、感謝を申し上げます。長い間ご苦労様でした。ありがとうございました。

(3) 総会に続いて

① Q&A

総会に引き続き、会場を模様替えし顧問先生方に加え、機器メーカーのかたがたに同席頂き、齊藤先生の司会でQ&Aを行いました。

会場からの質問も加え、全12問に対し、顧問先生方の回答に加え、機器メーカーの方、高橋会長代行、小林兵庫県支部長からのコメントが出るなど、非常に活発かつ、ためになる会でした。詳細は、「Q&A集第8号」と、かていてるVol.54No.4（2023年10月）に掲載されています。最後に、次回の再会を期して全体写真を撮影しました。



(Q&A後の参加者の集合写真)

②総会、Q&Aが終わった後

総会、Q&Aなどが終わった後、東京から遠路はるばるご参加下さった本部の高橋会長代行の意向もあり、近畿圏の支部長会を急遽設定しました。

京都支部の西川先生は体調不良で参加されませんでした。関西・兵庫県・滋賀県の支部長は参加、奈良県は齊藤先生、北林さん、中西さんと私が参加しました。

話題は、もっぱら各支部の困っていることと、本部として積極的に支援していくというものでした。(M M)

(2) 新体制でスタートしました

総会で選任された役員の意気込みを紹介します。

名誉支部長 北林進

2代目の支部長として12年間、会員の皆様、顧問先生方、機器メーカーの方、その他多くの支援者によって大過なく役割を果たせました。直近では、新型コロナ禍により十分に活動をできなかったことが心残りです。ただ村木新支部長や役員の皆さんに後を託せたことは幸せとするものです。今後は名誉支部長として、少しでもお役に立てたらと思っています。

支部長 村木正義

今年3月の理事会で「解散止むなし」との結論が出ますが（私は監事として傍聴）、その後どうにかして継続できないかと模索し、有志と相談しても、継続させるには私が決断するしかないことを悟りました。そして臨時理事会を開いてもらい、総会に解散か限定的継続かを諮ってもらうこととしました。そのことについては「かていてる」(Vol.54No.3 (2023年7月)) の新任支部長ご紹介で書きましましたように、やると決めた以上、多くの人に満足してもらえることをできる限りやりたい。今は仲間とできることをやっています。

奈良県支部を存続させたいと思う方々は、是非行動で示して下さい。一緒にやっていきましょう。

副支部長 中西三恵子

「なんとかしたい」と思われる村木さんの熱意に応える形で残ることにしました。今期で引退したく早くから言い続けていたのですが…

みなさんあつての支部です。皆様の応援に期待しています。なんでも結構です。お手伝いお願いします。

理事 鈴木佐一

先日のペースメーカー検査で主治医の先生に「入れ替えまで後4年ですね」と言われました。早いものです。初めて入れ替えたのは10年目でした。16年前装

役員

役職	NO.	氏名
名誉支部長	5487	北林 進
支部長	8000	村木 正義
副支部長	6184	中西三恵子
理事	7387	鈴木 佐一
理事	10115	上村 誠
理事	11192	板橋 重子
理事	11221	大門 笑子
監事	10613	中西 淳子

サポーター 8131 小糸 晃夫
5416 下櫻 勝弘
10232 阪田 祥裕

着後パンフレットを見て即入会しました。本部に電話すると、「奈良県支部は、活動が盛んです。楽しみにして下さい」との返事でした。しかし今会員数も結成時の半数になりました。解散準備でなく再結成に動いてくれて、新支部長に就任された村木さん、ご苦労様です。「ガンバリましょう」。医療がもっともっと進みPMを装着しなくてよくなる時が来たら笑って解散しましょう。私と同年代の新支部長にご協力いたします。

理事 上村誠

体力が急速に落ちていると自覚しています。そのためPMの仕事を引き受けても出来ないと思います。しかしラベル印刷他簡単な雑用であればお手伝い出来ると思います。

理事 板橋重子

支部長の「できることをしていきましょう」の言葉をよりどころにしようと思っています。何しろ知らぬ事ばかりです。

そこで、やりたいことは奈良県支部の皆様で総会やフォーラム、地区懇談会にもお出かけにくい方々に、誕生日のカードをお送りするのはどうかなあと考えています。

理事 大門笑子

私が理事としてできることは、

- やる気になれましたので、どこへでも自分の足で行けます。
- パソコンはだめですのでやれることは限られています。
- できることのお手伝いをしていきたいと思います。

サポーター 小糸昱夫

サポーターとして出来る範囲でお手伝いさせていただきます

サポーター 下櫻勝弘

仕事が現役なので、なかなかできないがやれることはやりたい。

サポーター 阪田祥裕

仕事や地域の役員などで忙しいのですが、パソコンもできるし、やれることをやっていきます。

このメンバーで1年間やってきました。その活動は「限定的活動」だったのでしょうか？この調子でできる範囲をやっていきます。

(3) この1年の活動

前述のように令和5年度は総会で限定的継続が議決され、新体制でのスタートとなり、出遅れ感はありましたが、皆様のご支援により予定した計画をほぼ遂行できました。以下にこの1年間の活動を振り返ってみます。

会員数の推移は、入会者2名に対し、退会6名、死亡5名で、減少はしましたが、94名となりました。

(1) 本部・近畿ブロックの集会に参加して

①本部総会・全国支部長会に参加して（村木）

支部長になって間がなく、何が何だか分からぬままでの参加でしたが、多くの方々がペースメーカー等を入れた患者さんを支えていることを感じました。

②近畿ブロックの支部総会に参加して

近畿ブロックの4つの支部の総会に、役員分担で参加させていただきました。経験の浅い役員にとっては大いに参考になったようです。

滋賀県支部（中西）：4月23日（日）於：ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター
兵庫県支部（村木）：5月28日（日）午後1時半～4時半

於：尼崎小田北生涯学習プラザ

関西支部（中西・大門）：6月11日（日）午後1時～4時 於：千里中央病院
京都支部（鈴木、板橋、村木）：10月14日（土）午後1時～3時

於：徳洲会六地藏総合病院

③近畿ブロックの連絡会開催

コロナ禍前には、近畿ブロックの5支部の連絡会を年1回、幹事持ち回りでやってきました。情報交換や懇親に寄与してきたようです。当奈良県支部が幹事の番になった年から、コロナ感染症が猛威を振るい、開催できずに来ていました。5月にコロナ感染症が第五類に移行したこともあり、企画し調整しましたが、当方の力不足で開催できませんでした。

(2) 第23回奈良フォーラム

当支部では会員の勉強会、地域医療関係者への発信を兼ねて、年に1回奈良フォーラムの名で開催してきました。この数年コロナ禍の影響で開催できなかつ

たのが、令和5年10月22日（日）に開催することができました。

フォーラムの中心は講演ですが、それも何度も企画して延期となっていた、京都大学 iPS 細胞研究所の吉田善紀先生をお招きしての待望の講演でした。レベルの高い最新の情報を分かりやすくお話し頂きました。それに続いて Q&A も行えました。

ともにテープ起こし（本部の支援で出来ました）をし、Q&A は既にお届けしましたし、講演集も発行する予定です。

①特別講演

3年前に計画されたが、コロナ感染拡大等に阻まれ延び延びになっていた奈良フォーラムを実施します。講師には、以前もお願いした京都大学 iPS 細胞研究所准教授の吉田善紀先生です。先生はノーベル賞を受賞された山中伸弥教授の紹介による方で、iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門で吉田研究室を率いて、心疾患等に対して iPS 細胞を用いて再生医療、創薬、疾患メカニズムの解明を目標として研究されておられます。非常にお忙しい中で快諾して頂きました。

開催日時：10月22日（日）午後2時～4時半
場所：橿原ミグランス（橿原市役所分庁舎）

4階コンベンションルーム

講師：吉田善紀先生（京都大学 iPS 細胞研究所准教授）

演題：「iPS 細胞による心臓疾患への適用の現在と展望」。

会には、会員に加え、顧問先生を含む医療関係者、機器メーカーの方、それに一般市民を含め、50名の参加者でした。講演は iPS 細胞に関する心臓疾患への適用の最新情報で、非常にレベルの高い内容でしたが、会員や市民の皆さんにも分かるようにお話し頂きました。大変好評でした。



第23回奈良フォーラム 講演とQ&A

日時：令和5年10月22日（日）午後2時～4時半
場所：ミグランス（橿原市役所分庁舎）4Fコンベンションルーム
（近畿大和八木駅すぐ。橿原市内藤町1-1-60 ☎0744-47-2924）

＜第1部＞ 午後2時～3時15分
講演：「iPS細胞の心臓疾患への適用の現在と展望」
講師：吉田善紀先生（京都大学 iPS細胞研究所准教授。医学博士）
ヒトiPS細胞 分化心筋細胞 iPS細胞研究所 増殖分化機構研究部門で吉田研
究（心臓疾患）にiPS細胞を用いて再生医療、創薬、疾患メカニズムの解明を目標としています。
トロボニン（Troponin）
心筋（心臓）の収縮を促すタンパク質です。iPS細胞研究で見つかったことを臨床応用につなぐことを目標にして研究を進めています。日々の研究において生まれる好奇心を大事にして研究を進めていければと思います。

＜第2部＞ Q&A 午後3時半～4時半
事前に質問をお寄せ下さい。顧問先生、機器メーカーの方が丁寧にお答えします。
参加費：無料 定員：70名
申込み：添付返信ハガキ、または下記メールがFAXで事前申込をお願いします。

② Q&A

講演に引き続き、横田顧問先生（白庭病院副院長）の司会で、事前に登録された6問と、当日会場からあった1問を加えて、顧問先生、機器メーカーの方からの適切な回答を頂きました。

このQ&Aは、かてている Vol.55 No.2（2024年2月）に掲載して頂きました。

(3) 支部報・講演/Q&A 集発行

① 支部だより奈良（盛夏号）

支部報「支部だより奈良」は、例年通り盛夏号と新春号を発行しました。

盛夏号では総会顛末記、新体制の自己紹介、近畿各支部への参加録、今後の取り組みなど、前向きの記事が書けました。サロンで取り上げられた「知っていますか？国民運動（デコ活）がスタートしました」をご紹介します。

 <p>日本心臓ペースメーカー友の会 支部だより 奈良 【盛夏号】</p> <p>友の会 生活の質の向上と 生きがいを持つこと</p> <p>Vol. 55 No. 2 発行日 2024年7月 日本心臓ペースメーカー友の会 奈良支部</p>	 <p>Japan Association of Cardiac Pacemaker Friends</p> <p>友の会 生活の質の向上と 生きがいを持つこと</p> <p>友の会 生活の質の向上と 生きがいを持つこと</p> <p>友の会 生活の質の向上と 生きがいを持つこと</p>	<p>表紙は語る</p> <p>当分お別れの興福寺五重塔とこれからも迎えてくれる中金堂(右) 五重塔の屋根のふき替えと修理を120年ぶりに行うため、巨大な素屋根(塔をすっぽり覆う屋根付きの巨大な足場)がかけられるので、当分お別れです。 五重塔は730年に創建されたと伝わる。その後、落雷による焼失などで再建を繰り返し、現在の塔は室町時代の1426年に建てられ(国宝、高さ約50.9メートル)、600年近くずっと立ち続けています。 今度その勇姿を見せてくれるのは、2031年の予定。皆さん元気で五重塔に再会しましょう。</p>
--	--	--

=サロン=

知っていますか？ 国民運動(デコ活)がスタートしました

「国民運動」？「デコ活」？知っていますか？「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」で、その愛称が「デコ活」です。

ところで、この夏は暑かったですね。2023年7月は「観測史上最も暑い月」になったそうです。これを発表した国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が来た」と述べて、各国政府に気候変動対策の加速を求めました。

日本は、2050年にカーボンニュートラル(CO₂の実質排出ゼロ)及び2030年度に2013年の46%削減(家庭部門は66%削減)するを公約しています。しか

し、家庭部門は進んでおらず、目標の実現に向けて、暮らし、ライフスタイルの分野でも大幅なCO₂削減が求められます。

そこで、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を促すため、衣食住にわたる国民の将来の暮らしの全体像「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの10年後」を明らかにし、具体的なアクションを提案するとともに、自治体・企業・団体等の参加の下、脱炭素化による豊かな暮らし創りに向けた取組を展開し、新たな消費・行動の喚起とともに、国内外での脱炭素型の製品・サービスの需要創出にもつなげていくというのですが、一昨年の10月に始まった国民運動です。以前からやっているクールビズやウォームビズの「クールチョイス」に継ぐ、第2弾です。

当支部が「報恩・奉仕活動」として参加している活動は、「新しい取り組みで省エネ・節電をしよう！」という題で、国民運動の1事例として取り上げられています。ここでいう「新しい取り組み」とは、私たちが7年間やってきた、グループ単位で省エネ・節電する「市民省エネ・節電所」です。この取り組みを国民皆で一緒にやろうよと呼びかけているのです。

自分でやれることをすぐ始め、長く続けなければならない切羽詰まったところに立ち至っているのです。

②支部だより奈良（新春号）

新春号は例年のとおり、支部長と顧問先生の新春の挨拶が載り、うれしい新入会員の挨拶がありました。下記のように支部活動がそれなりにできたのでそれを紹介する「支部の活動」のコーナーと、西川顧問先生の「春のくしゃみ」と題するサロンコーナーも掲載できました。コロナ禍をクリアし徐々に支部活動ができていることを感じて頂けたと思います。

目次を紹介しますと、

新年のご挨拶：支部長、西川先生、齊藤先生、橋本先生、
中嶋先生、西田先生、横田先生、滝爪先生

新入会員のご紹介：須川映治さん、福川昌代さん

支部の活動：(1) 地区懇談会を開催しました

(2) バースデーカードを受け取りましたか？

(3) 京都支部総会に出席して

(4) 奉仕・報恩活動

サロン：「春のくしゃみ」ー「Freeze」と「Good Play」
(西川先生)

表紙一刀彫について

支部だより奈良の新春号を飾ってきた絵馬に替わって今年は「奈良一刀彫」を取り上げました。一刀彫とは、平安時代後期から約900年続く、奈良伝統工芸です。ここでは桜井市在住の一刀彫作家の高橋勇二氏の作を掲載します。

- 事務局からのお知らせ：(1) 青い鳥葉書寄贈のお願い
(2) 本部のホームページがリニューアルされました
(3) 弔辞：故片岡正彦氏

この1年で2名の入会がありました。自己紹介をお願いしました。

○須川 映治さん（会員番号 11633）

初めまして。昨年 2023 年、70 歳の秋に ICD の植え込みをして戴き、ここに新入会させていただき須川と申します。

心筋梗塞歴は長く、発症は 2001 年秋の初めでした。仕事中の 9 月 17 日急激な胸の痛みに襲われ、救命センターでのステント治療で一命をとりとめさせてもらったのですが、「喉元過ぎれば」のご多分にもれず、10 年経った頃から、それまでの薬も絶っての無精生活の中、2022 年これも夏の終わりに心筋梗塞がまたも襲ってきました。

なんと車の運転中で、とにかく近くのコンビニ駐車場に入り、救急要請をしてその時もステントでの治療で、お陰様を持って何とか一命をつなぐのですが、そして去年の 6 月、今度は胸が途方もなく熱くなり病院に飛び込むのですが「悪しき生活習慣の成れの果て」の食道炎だからと、追い返されてしまいます。

その後しばらくはやる気も出ず、夏場なのに水分をとるのも億劫で、何もしたくない気分にも襲われていました。

定期通院時に主治医にその話をしたら、それこそが心筋梗塞だからとのこと。それからコレステロールの管理など体調や体重も整えて準備し、ICD と共にある QOL を学びつつ、11 月に植え込み術をしていただきました。

ただ具体的な生活を思う中、退院後直ぐにこの友の会への入会をお願いしました。ICD との生活で、70 歳にして人生をリスタートすることになりましたが、まだ仕事も現役でしています。これから末永くよろしくお願いいたします。

○福川 昌代さん（会員番号 11641）

「まさか」の坂

健康優良児であることしか取柄の無い、家事・ガーデニング・野菜づくりに精を出す私でしたが、座骨神経痛の健診で、担当医から「心臓に重大かつ緊急を要する問題があるのでは？」とのご指摘があり、その 2 週間後の令和 5 年 9 月末にはペースメーカー手術を受ける事態となりました。

振り返ってみますと予兆がありました。買い物中や犬の散歩中に起こる「めまい」、体の倦怠感等がそれですが、まさか心臓に疾患があるとは想像もしませんでした。その年の 8 月 8 日に義母が他界し、心身ともに疲労が蓄積したのも一因かもしれません。

手術は無事成功裡に終わり、主人ともども一安心しておりましたが、今後の生活に不安を感じておりましたところ、日本心臓ペースメーカー友の会から入会のご案内いただき、村木支部長様からご説明を受けて心を強くしている所であります。今後、会員の皆様には、ご指導ご鞭撻を賜れますようお願い申し上げます。